＝ ラスト・2 ＝

蒸し暑さが続く日本、しかも、30℃超えの真夏日が続く6月16日から25日にかけて南アフリカ・ケープタウンで開催されたインダストリーオール（IndustriALL Global Union、産業別労組の国際組織・5,000万人）の中間政策会議に出席してきた。遠〜い、行きに2日、帰りに2日費やして、6泊10日の工程、ハードです。アフリカは暑いというイメージでしかなかったが、なんとコートが手放せなかった。そう、南半球は冬。同席した日本からの参加者と、アンコンシャス・バイアス＝無意識の偏見やん（意味合いは違うかもしれないが）と苦笑い。しかも、像もライオンもいない、想像を超える都会であった。

その国際会議、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの国々、もちろん開催国のアフリカの働く仲間たちが一堂に会しての会合。厳しい社会環境の中で虐げられる労働者、その働く仲間の組織化や国を超えた労使紛争への対応など、それぞれの実情の中でインダストリーオールの役割とその体制を支える会費問題にまで及ぶ論議の場となった。

会議2日目、いわゆる分散会で発言の機会をいただいた。組織化と労働組合の人材教育含めた組織強化を語ったが、当然のこと、基幹労連としての冒頭は、ご安全にから―。「世界各国からお集りの働く仲間の皆さん、ご安全に！　通訳さん、「ご安全に」は日本語でお願いします…」と。そして、「この挨拶は、私が所属する基幹労連の挨拶です。働く仲間の心身共の安全と健康を願い、自らの誓い」と続く。

世界で蔓延した新型コロナウイルス感染症は経済・社会の脆弱さを浮き彫りにし、ロシアのウクライナへの軍事進攻は、社会も人も分断し、命を奪い、働く職場や日常生活まで消失させた。アジアでも中台問題をはじめ、多くの地域で地政学的課題を抱え、世界のいたるところで、働くもの・生活者の安心・安定・安全の揺らぎが生じている。今や、私たち基幹労連の挨拶は、労働災害防止の観点のみならず、あらゆるものの安心・安定を含めた「安全」につながるもの、えらい云いようだが、まちがいない。だって、常に語ってきた、「わが身を守り・家族を守り・仲間を守る。そして、働く職場を守る。」これは、万国共通の労働組合の役割、また一つ、自信をもって、みんなで“ご安全に”、続けましょうや…。

そんな、海外出張も今回が最後となった。思い起こせば、妻や高一の長男と中一の家族を残し、初めて単身赴任したのは2000年9月、そして2006年、2度目の単身赴任から基幹労連にお世話になった。単組、企業連の書記局業務しか経験のなかった我が身、基幹労連事務局次長の任に着いた時は、誰も想像してくれないかもしれないが心細かったこと。でも、助けてくれる人がいた。職員の皆さんや、尊敬してやまぬ故内藤純朗委員長をはじめとする諸先輩や仲間のご指導と協力のもと、4年のご奉公を終え帰分。もう来ることもなかろうと、皆に別れを告げたが、人事は魔物？たった4年で、また東京。しかも古巣の基幹労連にお世話になることとなった。

あれから、9年。多くの仲間に巡り合い、多くの同士とともに運動を進め、行きつくところの「好循環運動」。職場原点の好循環が、労働組合の究極の目的である「組合員とその家族の幸せ追求」に適う運動であることを真の髄に塗り込んだ、この話は、ラスト・メッセージにて…。

話を戻そう、南アフリカから二晩かけて着いた羽田空港国際線ターミナル。んっ！あっちいー。真夏やー。日本の夏、じっとり・うだるような暑さ。熱中症も他人ごとではない。

覚えているだろうか、「行ってらっしゃいは、行って元気に帰ってらっしゃいの意」「行ってきますは、行って元気に帰ってきますの意」。

基幹労連・夏の陣。水分とって、休憩とって、仲間のみんなに声かけて。今日も笑顔の帰宅でありますように。

世界規模の挨拶でラスト・2を閉めたい。『みなさん、ご安全に！』

ご安全に

2023年7月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長　神田 健一